

令和5年度 県立工業技術センター研究課題評価結果(事前評価)

個票No.	研究課題名	評価項目	評価結果			委員コメント (※類似のコメントは集約)
			平均得点	合計得点	採否	
1	【事前評価】 播州織の高付加価値化のための新規意匠系の開発	必要性	4.5	16.9	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のSDGsの推進に重要であり、必要性、代替性は評価できる。 ・有効性と効率性について、もう少し議論が必要である。 ・これまで開発してきた技術をさらに向上させる取り組みであることは理解できたが、新規性や県内企業にどのような波及効果があるのかが不明である。 ・ファッション業界の高付加価値化において、SDGs素材系の開発は必須であり、早急に取組む必要性は理解できる。 ・播州織の高付加価値化のためには糸の高付加価値化が不可欠である。 ・カバリング撚糸の開発は兵庫県産の糸を創成するという新しい試みとして評価できる。 ・播州織の付加価値を付ける着眼点は良いが、オリジナリティ、コスト面での課題が残る。 <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播州織を利用しているユーザーや製造企業のニーズを反映した研究内容であるか。 ・より多くの企業や行政機関との共同研究体制の構築が必要である。 ・世界中で研究が進む中で、他社を凌駕する成果を上げるためには、播州織のどのような特性を生かしてオリジナルな成果とするか、着眼点を明らかにして進めて頂きたい。 ・パイナップル葉の利用は、未使用資源を利用するという意味では重要であるが、栽培から紡績までの間に多くの産業が関わる必要がある。全体の中での位置付けを明確にする必要がある。廃棄物の利用も同様。 ・カバリング撚糸は、共同で開発する企業があるが、できるだけ広く成果を広げられるように考えて頂きたい。 ・SDGs糸は、是非とも実用になるまでの研究開発をお願いしたい。 ・パイナップル葉のSDGsを意識した糸の加工は、水溶性ビニロン等の使用で毛羽を押さえられるとのことだが、コスト高に懸念が残る。
		有効性	4.3			
		効率性	3.8			
		代替性	4.3			
2	【事前評価】 製品の選好に大きな影響を与えるニオイの濃縮液の製法に関する研究	必要性	4.0	15.8	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SAFEの方が性能が良いのは理解できる。 ・効率性に関しては、2つの方法論のみ記載されているため評価はできない。 ・匂い分析におけるGC-MS活用のノウハウ構築にもつながると考えられる。 ・良い匂い成分だけを濃縮することができれば、研究成果の応用が期待できる。 ・匂いの濃縮技術とブランディングとは、独立した課題である。本技術の必要性が良く分からない。 ・匂い成分の同定に係る要望に対応するために必要な技術である。ただ、同定した後、その結果をどのように利用するのが明確でない。 ・研究の有効性、必要性は理解できたが、最終的にこの方法で行うことの目的が十分理解できなかった。 ・匂いは個人により感じる差が大きいと思うが、マーケティングに用いることは地場産業の活用に繋がると思う。 <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濃縮液を作成する有効性を明確にして頂きたい。 ・コスメだけでなく、プラントベースフードに添加する和牛エキスの開発も検討すれば良いのではないかと。 ・ブランディングに向けた技術課題を整理されて、(和牛コスメ向け?)優先順位をつけて取り組んで頂きたい。 ・匂い成分を同定した後の展開が見えにくい。製品に付加価値をつけるために使用したいということだが、もう少し具体的に検討する必要がある。また、同定した成分の特許出願についても検討して頂きたい。 ・本研究の成果を有効利用する方法を具体的に考えて頂きたい。 ・研究シーズの利用が多く考えられる。兵庫県の地場産業への活用に期待したい。
		有効性	4.0			
		効率性	3.8			
		代替性	4.0			